

科目群の編成

前述した教育目標を達成するため、社会福祉学部で開講されている全授業科目はいくつかの科目群に分けて位置づけされている。ここでは、それぞれの科目群がどのような目的と特色をもっているのか、卒業のためにどのように履修していけばよいのかなどについて説明する。

授業科目と履修上の説明

授業科目は大別すると、「教養科目」と「専門教育科目」とに分けられる。

社会福祉学部の履修体系（表）

2022 年度生						最低必要単位数		
区分		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	必修	選択必修	選択
教 養 科 目	導入科目	人間と社会の理解				4		教養科目及び専門教育科目から52単位選択(48)
		情報リテラシー						
		アカデミックライティング						
	論理と思考	選択必修〔最低 4 単位〕				4	8 (6)	
	身体と感性	選択必修〔最低 4 単位〕				4		
	地域と世界	選択必修〔最低 4 単位〕				4		
	歴史と未来	選択必修〔最低 4 単位〕				4		
	外国語	選択必修〔最低 4 単位〕 外国人留学生を除く				4		
	日本語	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ		外国人留学生のみ履修可		(8)		
		日本事情基礎				(2)		
職業観養成	福祉の仕事				2			
計 34 単位 (38)								
専 門 教 育 科 目	基幹科目	社会福祉の考え方				2	8 8 8 4	12
	基礎科目	選択必修〔最低 8 単位〕						
	展開科目	選択必修〔最低 8 単位〕						
	演習・実習科目	選択必修〔最低 8 単位〕						
	総合研究科目	専門ゼミナールⅠ			4	4		
計 38 単位 (38)								
合計 124 単位 (124)								

※1 選択の 52 単位には単位互換による他大学での履修単位を含む。

※2 () 内は外国人留学生の取得単位を示す。

1. 教養科目

教養科目は、「導入科目」「論理と思考」「身体と感性」「地域と世界」「歴史と未来」「外国語」「職業観養成」の系列からなる。

(1) 「導入科目」

この系列には、全学生が 1 年次に履修しなければならない「人間と社会の理解」が配置されている。「人間と社会の理解」は、少人数でクラスを編成するゼミナール形式の授業であり、人間と社会が関わりあう現実場面を広く体験することを通して、問題を自ら発見・考察し、まとめる作業を通して課題探求力を養うことを目的としている。

また「アカデミックライティング」では、意見と事実を分けて記述したり、先行研究を適切に引用しその出典情報を明記したり、無自覚な剽窃に陥ることを避けて自らの考えを根拠に基づいて論理的・客

観的に記述するといった、レポートや論文を執筆する際に求められる最小限必要な技術や心構えの修得を目指す。

(2) 「論理と思考」「身体と感性」「地域と世界」「歴史と未来」

社会福祉学部のカリキュラムポリシーとの整合性を図って、上記4系列を配置している。「論理と思考」(サイコに対応)は哲学・法学・経済学系の科目、「歴史と未来」(ソーシャルに対応)は文学・歴史学・社会思想史系の科目、「身体と感性」(バイオに対応)は心理学・倫理学・芸術系科目、「地域と世界」(ソーシャルに対応)は信州学・教育学・社会学系科目によって構成される。

[第1群 論理と思考] 体系づけられた合理的知識に基づき、論理的に、そしてときに批判精神と批判力を伴わせて、ものごとを考える。加えて、対人援助のためのコミュニケーション技術の修得を図る。自然科学系領域においては、体系的な知識を身につけながら論理で説明できる考察力を養う。人文社会科学系領域においては、知識を踏まえた批判力をもって社会事象を深く考える姿勢を養う。

[第2群 地域と世界] 長野大学が位置する信州・上田をまずは地に足の着いたフィールドとし、自然・風土・文化・人の営みを学ぶことをとおして、地域を理解し愛着をもって地域の持続的発展を担う気概を醸成する。さらには、長野県を越えて社会や世界というもののあり方を普遍的に考究する意識を高める。

[第3群 歴史と未来] グローバルな視野を持ち、文化的にも多様な人々と共生する意識を育てながら、自らが身を置く地域の固有の価値を理解して国際社会に発信する力を養う。そのためにも、自己と世界の行き越し方を歴史的に考察し、現在の立ち位置を知り、それらを踏まえてこれからの未来への道行きを構想する知恵を紡ぐ。

[第4群 身体と感性] 人間活動の基礎となる生命力と健康的な身体・精神を保持し、自然・社会事象への高い感受性を磨きながら、その生命身体感性を行動の原動力とする。生命活動を自己の身体と周囲の環境の両面から認識し、さらには文化・芸術も受け止めながら創造するような感性を磨く。これらの科目群によって構成される多様な学問領域での学修によって学生を取り巻く「いま・ここ」をよって相対化することを目指す。

(3) 外国語科目

外国語科目の教育目標はコミュニケーションのための実践的な語学力を養成することと、諸外国の生活・社会・文化等に対する知識を身につけることである。

<外国語科目の特徴>

① 外国語科目には英語、中国語、ドイツ語、韓国語の4ヶ国語がある。

② 英語は、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」及び「英語(講読)Ⅰ～Ⅵ」「英語(会話)Ⅰ～Ⅵ」の14科目、中国語は「中国語Ⅰ～Ⅵ」の6科目、ドイツ語、韓国語は「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」「韓国語Ⅰ・Ⅱ」の2科目ずつ開講され、レベル別にクラスがわかれている。

語学は、段階履修方式の科目である。順番に履修すること。

また、同一セメスター内でⅠとⅡのように2科目を同時に履修することはできないので注意すること。

③ 英語は、自身に合ったレベルを選択すること。レベル選択の目安はガイダンスで周知する。

④ 中国語、ドイツ語、韓国語は必ずⅠから履修すること。

⑤ 外国語は「英語(講読)」「英語(会話)」「中国語(聴解)」「中国語(作文)」を除きすべて週2回の授業である。

◆外国人留学生の履修上での留意点

外国人留学生は「日本語Ⅰ～Ⅳ」、「日本事情基礎」の5科目の内、10単位以上を履修する必要がある。

「日本語」

外国人留学生は原則として1年次前学期に「日本語Ⅰ」、後学期に「日本語Ⅱ」、2年次以降に「日本語Ⅲ」「日本語Ⅳ」を履修する必要がある。クラスは教育支援担当で自動的に履修登録される。

「日本事情基礎」

「日本事情基礎」は1年次の必修科目である。

(4) 「職業と生き方」

共生福祉社会に貢献できる職業人として、仕事や職業に関する考え方を育成する科目群である。将来就く自分の職業について理解を深め、福祉に関する関心と就業に対する意欲を養い、同時に社会人としてもつべき態度や思考力・判断力を身につけることができる。

2. 専門教育科目

(1) カリキュラム体系（カリキュラムポリシー）

社会福祉学部の「専門教育科目」は、①人びとの支援に必要となる技術を学ぶため、ミクロ（個人、家族）・メゾ（組織・施設）・マクロ（制度・政策）レベルの専門的な知識を身につけることのできる科目、②地域における総合的ケア体制推進の先進県である、長野県の特性を生かした独自性のある科目、③福祉課題を身近なものとしてとらえるための演習・実習、専門ゼミナールやインターンシップ等により実践的な学びを可能とする科目、などから構成されている。これらの科目を体系的に履修することにより、人びとの福祉の向上に寄与できる職業人を育成することを目的としている。

本学では、1988年度より「社会福祉士」国家試験受験資格取得課程、1999年度より「精神保健福祉士」国家試験受験資格取得課程が、さらに2001年度から高等学校教科「福祉」教員養成課程が、2009年度からは特別支援学校教員養成課程が開設されている。また、2003年度からは「認定心理士」資格、2019年度からは、公認心理師試験を受験するための資格の一部となる、大学で履修することが必要な科目が開講されているほか、2008年度からは「保育士」資格取得に向けた専門科目が開講されてきた。この他に中学校社会、高等学校地理歴史、公民の免許状取得が可能である。これらの課程および資格・免許取得を希望する学生諸君は、1年次より計画的に指定科目等を履修していくことが必須要件となる。

注) 複数の資格を取得する場合、資格の組み合わせによっては4年間で取得できない場合や、資格によっては併修できない場合がある。

(2) 専門教育科目の構成

専門教育科目群は、科目の内容・特性に応じて区分され、「基幹科目」「基礎科目」「展開科目」「演習・実習科目」「総合研究科目」の5領域から構成されている。科目の性格により、履修可能年次が設定されているので留意すること。

①基幹科目

社会福祉に関する原理的な理解を深める科目で構成され、専門性の基盤を構築するために必要となる中核的な科目である。

②基礎科目

社会福祉、精神保健福祉、教職、心理および保育に関する基本的理解を深める科目で構成され、専門領域を組み立てる基礎的な知識と技術を身につけるための科目群である。

③展開科目

社会福祉、精神保健福祉、教職、心理および保育に関する発展的理解を深める科目で構成され、基幹科目と基礎科目で養われる専門性を展開させる科目群である。

④演習・実習科目

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格の取得に必要な演習、実習指導、実習および認定心理士の資格取得に必要な実験から構成されている。またインターンシップも位置付け講義科目等で学んださまざまな福祉課題を身近なものとしてとらえるとともに、みずからの専門性を高めるための実践的な科目群である。

⑤総合研究科目

「社会福祉特別講義」「専門ゼミナール」「卒業研究と論文」から構成され、学生課題意識をさらに探求していくと同時に、主体的な学習・研究を指導することに主眼をおいた科目群である。

3. 3つのコースによる系列的な教育

社会福祉学部には、社会福祉・福祉心理・発達支援の3つのコースがあり、1年次より自分が将来進みたい分野、必要とする資格取得に向けて、各コースでの学びを参考にしながら学生が自分の学びを主体的に構築する。それぞれのコースには、将来必要とされる知識や、資格取得に必要な科目が体系的に用意されており、めざす将来に向けて、効果的に専門性を深めることができる。

①社会福祉コース

社会福祉コースでは、さまざまな生活問題を抱える人のソーシャルワークを行う社会福祉の専門職をめざして、高齢者や障害者、児童などへの支援のあり方や、地域社会に必要なとされる社会福祉について考えることを目指すカリキュラムを設定している。

社会福祉の分野において重要なのは、さまざまな問題をどのように捉えていくかということである。多様化する現代社会において、これまでの福祉の枠組みでは対応できないことがたくさんある。何が問題なのかをもう一度考え直し、枠組みにとらわれない柔軟な発想をしていくことが必要である。学生たちには、社会福祉の学びを通して視野を広げていただきたい。

[取得可能な資格]

- | | |
|-------------------|---------------------|
| ■ 社会福祉士（国家試験受験資格） | ■ 精神保健福祉士（国家試験受験資格） |
| ■ 社会福祉主事（任用資格） | ■ 身体障害者福祉司（任用資格） |
| ■ 児童福祉司（任用資格） | ■ 児童指導員（任用資格） |

②福祉心理コース

福祉心理コースでは、認知、学習、人格、発達などに関する心理学の基礎理論に加え、「心理学的支援法」（カウンセリングなど）や「心理的アセスメント」（心理検査を含む）、および「心理学統計法」（データの分析方法）などを学び、人の心を科学的に捉える視点と技術を身につけることを目指すカリキュラムを設定している。

心理学は人間の行動や心の動きを科学的に分析していく学問である。心理学の研究テーマには、人間の日常生活に直結したものが数多くあり、その中には福祉等の現場で役立てられる知識や技術も多い。本コースでは、カウンセリングや心理検査などの専門知識を身につけることにより、広く社会で活躍できる人材の育成を目指している。

[取得可能な資格]

- 公益社団法人 日本心理学会 認定心理士
- 同 認定心理士（心理調査）

※「公認心理師」については、大学（学部）の省令科目（必修科目）のみ開設しており、本学の大学院総合福祉学研究科では、公認心理師の大学院カリキュラムには対応しておりません。「公認心理師」資格については、HPをご確認ください。

「『認定心理士』資格取得と『公認心理師』受験資格取得」対応モデル

人間の行動や心理機能について、これまでの幾多の研究に基づいて培われてきた標準的知見を学修するとともに（専門教育における基礎科目の学修）、実験・調査・観察等の標準化された手法及び統計手法を用いて検証すること（心理学実験の学修）が心理学教育の基本的枠組みといえる。このデータの収集と分析という客観的かつ合理的な学問的探究のプロセスに専心して取り組むことにより、“事象を客観的にとらえて考察する技術”や“クリティカルシンキング（批判的思考）の技術”を醸成する。これら心理学の『基礎分野』で修得した知識と技術を土台として、医療・教育・福祉・司法・産業などの領域における臨床心理学的な支援や、実社会におけるさまざまな心理学的問題の研究に必要な知識と技能を学ぶための『応用分野』（専門教育における展開科目、応用心理調査実習、心理演習、心理実習、卒業論文などの演習・実習科目）の学修を積み上げることで、心理学の学びをいっそう深め、大学院進学や心理専門職に必要な心理学の基礎知識、実践的な技能の基礎を修得できる。

以上の学修の枠組みにおける心理系資格の位置づけとしては、主として、『基礎分野』の学修の成

果に基づいて認定されるのが「認定心理士」資格である。また、『基礎分野』に加えて、『応用分野』の中でも、特に、実験や調査といった心理学研究の技法についての学修の成果に基づいて認定されるのが、「認定心理士（心理調査）」資格である。さらに、『基礎分野』の学修の上に、臨床心理学的な知識と技能の学修を積み上げることで取得できるのが、国家資格である「公認心理師」資格であるが、この「公認心理師」資格は、大学において心理学その他の公認心理師となるために必要な科目として法令で定めるもの（以下「必要な科目」という。）を修め、卒業するだけでは取得できない点にも注意されたい。公認心理師試験の受験資格を得るためには、大学で必要な科目を修めて卒業した後、必要な科目を開講している大学院（修士課程）に進学する、あるいは国が指定する施設で2年以上、公認心理師法第2条第1号から第3号までに掲げる行為の業務に従事するなど、大学卒業後の学修や業務経験の積み上げに加え、国家試験で合格することが必要となる。そのためには、大学在学中から、大学院進学や指定施設での採用試験合格に向けた準備等、国家試験の受験と合格とを視野に入れた学業への真摯な取組が求められる。なお、各資格の詳細については、それぞれの記載ページを参照すること。

なお、心理系大学院の入学試験では、英語の試験が課されることが多いため、心理系大学院志望者は、外国語科目の選択にあたって十分留意されたい。

③発達支援コース

発達支援コースでは、特別支援学校や中学校・高校などで活躍する教員をめざして、社会福祉の基礎はもとより、教育に関する基礎理論や方法を学び、教育現場で求められる福祉の知識や専門性を養うことを目指すカリキュラムを設定している。

多様化する現代社会において、子どもを取り巻く環境は大きく変化している。教育に対する課題やニーズも複雑になり、従来の教育指導では通用しないことも少なくない。そこで重要となってくるのが、社会福祉の発想である。在学中にさまざまな福祉の知識を身につけて、これからの教育のあり方と真摯に向き合っていただきたい。

[取得可能な資格]

- 特別支援学校教諭一種免許状※（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）
- 高等学校教諭一種免許状（福祉）
- 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）
- 高等学校教諭一種免許状（公民）
- 中学校教諭一種免許状（社会）

※特別支援学校教諭一種免許状を取得するには、「基礎免許」として中学校または高等学校の免許が必要となる。また、特別支援学校教諭一種免許状は、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、及び認定心理士との併修はできないので注意すること。